

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立廿日市西高等学校	校長	久保陵二	生徒指導主事	松脇泉
取組事例名	『文化祭における自主性・協調性・創造性の育成』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会執行部、文化委員を中心に生徒が自主的に活動する行事にする。 ○自己の役割を果たし、互いの協力関係を強める経験を通して、より良い集団の形成をめざす。 ○部活動・学習活動の成果発表、クラス企画（展示、アトラクション、食品バザー）など、多彩かつ創造的、総合的な教育活動にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団の中で自ら考えて行動し、周囲とも協働できる生徒の育成。 ○目標を設定し、その実現に向けた活動に挑戦できる生徒の育成。 ○積極的に他者と関わり、貢献意欲をもって行動できる生徒の育成。



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
第1回文化委員会 4/17 内容確認 文化祭準備 LHR 4/19 クラス企画検討 第2回文化委員会 5/10 クラス企画決定 第3回文化委員会 5/23 全体準備確認 クラス企画など準備期間 5/24～6/2（放課後） 第4回文化委員会 6/2 冊子作製 文化祭第一部 6/6 場所：さくらびあ文化ホール ダンス部・吹奏楽部・放送部・ 書道部・生徒会ステージ発表 文化祭第二部準備 LHR 6/7 文化祭第二部終日準備 6/9 文化祭第二部 6/10 場所：本校 1年 展示 2年 アトラクション 3年 食品バザー 各文化部、委員会、探究活動の展示発表	生徒にめあてをもたせるために ○本校生徒の活動の成果を発表する機会にするため、保護者だけでなく、地元の中学生を招待した。 生徒の意欲を高めるために ○参加意欲を高めるために、コロナ感染拡大で休止していた食品バザーを復活させた。 ○本格的なホールで発表することで、発表側と観客側双方の意欲向上に期待した。 生徒の頑張りを認め、価値付けるために ○文化祭の翌日、全校集会を開き、文化祭の成果と課題、今後の学校生活の在り方について生徒全員で確認した。



3 成果と課題
<p>アンケートでは92%の生徒が文化祭を楽しむことができたと答えている。「クラスで協力してものを作るということはあまり行ってこなかったのととても楽しく、また、それをたくさんの方々に見てもらい喜んでもらえてよかったです。」という生徒の声があったが、多くの生徒が同様に実感できたのではないかと。実際、生徒会執行部のリーダーシップが発揮され、受付や美化など各係が献身的に取り組み、各クラスや全体を通して互いに協力する姿勢がみられた。よって充実した行事になり、また望ましい集団形成につながる行事になったといえる。しかし一方では、一部の生徒に、自分たちだけで楽しむという姿勢や非協力的な姿勢がみられた。何のために文化祭をやるのかという目的意識の明確化とその共有化が課題である。</p>